

# 令和4年度 第11回高田区地域協議会 次 第

(会 議) 日時：令和4年12月19日(月) 午後6時30分  
会場：福祉交流プラザ 第1会議室

- 1 開会
- 2 議題等の確認
- 3 報告  
(1) 諮問事項 新市建設計画の変更について(通知)
- 4 議題  
(1) 地域活性化の方向性について  
  
(2) 令和4年度地域協議会の活動計画について
- 5 事務連絡
- 6 閉会

【次回全体会 1月23日(月) 午後6時30分～：福祉交流プラザ】

【次々回全体会 2月20日(月) 午後6時30分～：福祉交流プラザ】

「地域活性化の方向性」の作成に向けた高田区地域協議会学習会において  
高田区在住の市議会議員よりいただいた意見一覧（主に口頭説明からまとめた要旨）

No.	高田区の課題について	高田区の活性化について
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・城下町として、越後の国の中心として積み重ねられてきた歴史。明治期以降の急速な発展と、急速な人口減少等を主因とした社会状況の変化による商業機能、業務機能、居住機能等の低下とそこから派生する諸課題への直面。</li> <li>・地域の思いと現実とのギャップ。</li> <li>・地域の持続性への危機感。</li> <li>・高田区固有としては雪対応。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域の活性化」という言葉は、多様な視点があり、明確に定義することは難しい。高田区としてその持ち味や特徴・強みや弱みを踏まえ整理をし、高田区なりの定義がなされ、それができる限り広く共有されることが第一歩。それができれば、客観的な判断や評価も可能になるのではないかと。「地域活性化の方向性」の作成は、まさにそのための作業で、改めてひとつの形にまとめられることは、とても意義深いこと。</li> <li>・キーワードは「地域の持続性を高めること」に尽きる。</li> <li>・提案や話題提供として・・・町内会（地域の土台をつくるコミュニティの最小かつ最重要な組織）／まちなかで始まっている新たな動き（町家の利活用など）／まちの活性化に取り組んでいる方々の組織の「横連携の場」が大事になるのではないかと／にぎやかな過疎（過疎地だがにぎやか）／社会的活性化、経済的活性化、住み甲斐・住みごごち／教育と文化のまち／雪の問題（これほどの人口規模でこれだけの降雪地域は世界的に珍しい→魅力）／スローガン、キャッチフレーズの大切さ／終わりのない取組→地域を持続させ次世代へ／「祭り」をつくりたい。</li> </ul>
2	<p>活性化とは、「社会的活性化」と「経済的活性化」の2つの目的があると考え。 「社会的活性化」は、住民の地域活動への参加や地域でのつながり、そこに暮らす住民の豊かさの指標。「経済的活性化」は、その地域の人々が経済的に潤うこと。地域生活での課題を考える上で、「社会的活性化」という視点で述べる。</p> <p>高田区の【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他地区に比べて世帯数が多い</li> <li>・元気な高齢者が多い</li> <li>・商店や医療機関等が多い</li> </ul> <p>【課題および将来予測】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世帯数が増えてくることによる孤立化</li> <li>・令和6年の介護保険制度改正により要介護1、要介護2の生活介護が介護保険から外され、生活支援が必要な高齢者の増加</li> <li>・介護予防の必要性が一層高まる</li> <li>・考え方の多様性による世代間格差の拡大</li> </ul> <p>【強み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・独居、高齢者世帯、核家族が多い。マンパワーがある</li> <li>・社会活動への参加が活発。地域活動につながる</li> <li>・生活上の利便性がよい</li> </ul> <p>【ニーズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見守りや声掛けなどの地域での緩やかな支え合い</li> <li>・住民組織などによる地域力の強化</li> <li>・元気な高齢者の支え合いへの期待</li> <li>・社会活動等の出番の創出</li> <li>・子育て世代の支援、世代間の交流の場づくり</li> </ul> <p>また、高田区は商店や医療・教育機関等が多く、地域包括ケアシステムの地域への拡大が必要。そのためには、小学校区単位の住民組織づくりの可能性はないか。経済格差による孤立化、困窮支援を要する人口が多く、潜在的な課題もあり、どのように掘り起こしていくか。</p>	
3	<p>高田区における課題及び活性化策について具体的に提案する。</p> <p><b>高田城址公園</b>…高田城の復元。枳形門の復元。もみじの植栽を広め景観形成を図る。元南厚生会館跡地に「偕行社」を復元。高田城の植栽木々の剪定間引き、伐採調整、景観形成を維持。高田城址公園、園内道路の付け替え（高田図書館と芝生広場の一体化、スタバ横へ付け替え）。高田城址公園内に和風レストラン開設（三重櫓と高田図書館の間）等。</p> <p><b>高田商店街</b>…本町3、4、5丁目での「月1」もしくは「四季1」歩行者天国に合わせ「楽市楽座」を常設開催。本町通り3、4、5商店街利用者の駐車料金の実質無料化（例：3時間無料・減収補てんなど）等。</p> <p><b>高田駅周辺</b>…高田駅横地に高田税務署、社会保険事務所などを移転し、集積ビル（高田駅合同庁舎）建設。高田駅合同庁舎整備に合わせて、高田駅西口を整備等。</p> <p><b>雁木通り</b>…雁木通りの歯抜け部分を仮設雁木として整備し、通年にわたって通行の利便性を確保。雁木通りの空き地の緑化、パーキング化、雪捨て場化等。</p> <p><b>高田南部</b>…上越地域医療センター病院の高度なレベルアップ整備を進める（高度医療検査センターの併設、療養型病床群の整備拡充、緩和ケア医療の充実、「子ども病院」の新設など）。高田南部と新幹線駅との連たんまちづくりのため、南高田・新幹線駅都市計画道路の新設（実質的に新幹線駅を新高田駅化する）。南本町3丁目上越信金前交差点改良（大町通りへの道路直線改良）等。</p> <p><b>高田東部</b>…東城町2丁目新設道路から青田川放水路を渡り、大和4丁目団地内道路に直線的に整備等。</p> <p><b>高田北部</b>…三世代交流プラザを北本町2丁目、旧ガスタンク跡地に整備等。</p> <p><b>寺町</b>…寺町を明るくする「寺らす（照らす）まちづくり」、各々の寺社の発想でアートの行燈などを設置、設置費に対し助成。現行の寺町サミットの参加自治体を増やす。寺町界隈に消防署分遣所を設置等。</p> <p><b>豪雪対策</b>…儀明川ダムの早期完成を図り、消流雪用水を確保。高田区全体の狭隘道路の消融雪化を進めるため、加温式消雪パイプを拡大整備等。</p> <p><b>その他</b>…市街地循環100円バスの運行（病院、スーパー、商店街）等。</p>	

No.	高田区の課題について	高田区の活性化について
4	<p>1. 市全体と共通する課題 敢えて特筆すれば…高齢化、少子化、町内会維持、空き家</p> <p>2. 高田区に特化される課題(1) (人口集積地としての課題) 人口集積×豪雪/洪水/火災 どうやって防災をするか</p> <p>3. 高田区に特化される課題(2) (地区視点の課題) ・旧中心市街地のゆくえ (現在も中心市街地かどうかを考えていかなければならない) ・寺町のゆくえ (市が通年観光で何をしようとしているか見えない) ・高田城址公園のゆくえ ※もちろん他の地区もある</p> <p>4. 目的別課題 産業活性化(特に商業、サービス業)(市は本当に観光をやるのか) 教育環境整備(統合? 廃校? 移転?) Ex. 大町小と大手町小/附属小中学校 居住環境整備(老朽化、高齢化、少子化する昭和の団地)(豪雪対策)</p>	<p>※左記の課題解決が活性化に繋がる</p> <p>1. 市全体と共通する課題の解決 高田区だけの活性策(解決策)はないと考える 市の施策・予算×各地域の努力 地域自治の成熟、確立</p> <p>2. 特化される課題(1)の解決 基本的に行政の責任 被災した気仙沼市は「海と生きる」と宣言。我々は「雪と生きる」とすることもいいような気がする。</p> <p>3. 特化される課題(2)の解決 「ゆくえ」については、簡単な答えはない 市長は「共創」と言うが、「協働」とどう違うのか分からない。 第7次総合計画はバックキャスト(理想の姿を思い描き、そこに近づいていこうとするもの)でやるとのこと。どう行っていくかを皆で考えていかなければならない。As is, To be. 「どうなりたいのか」→地域独自予算×地域計画 ※地域独自予算は大きな問題、課題。また、一つの希望になるのではないかと。ただ、地域計画がなければいけない。</p> <p>4. 目的別課題の解決 ソフトの発想がまずあり、ハードの整備がある。</p>
5	<p>1. 上越市における高田の位置付け 高田とりわけ高田区域はまぎれもなく上越市の中心地であり、上越地域の中心地でもある。山と海に囲まれた高田平野で、さらに多くの田園地帯の中で「まち」を形成しようとするればここ高田区域が地勢的にも最適と思われ、歴史と文化が創られてきたものと思う。私たちはそれを一つの財産として誇りと自覚を持ち、次代へ繋ぐまちづくりをすべきと考える。</p> <p>2. 都市機能の集約 上越市ならびに上越地域の都市機能の集約地として高田区を提供する。</p> <p>3. 生活拠点の充実 その見返りという訳ではないが、年齢や障害のあるなしに関わらず、全ての住民が不便なく暮らせるまちをつくらなくてはならない。</p> <p>「活性化の方向性」が何に向かっている方向かがはっきりしないのが一番の問題。我々は議会の提案を市長に提出しており、その中で地域ビジョンをつくらうということを行っている。地域協議会はビジョンをたてて、それに向かって進む、それに向かって進むときの課題を解決しましょうというのが地域協議会の役割ということを再認識してもらおうと、「地域活性化の方向性」の問題も何から進めばいいかというのが理解いただけると思う。</p>	
6	<p>【前提となる考え方】 高田区は上越市で人口が多く、商業施設も充実、仲町などの繁華街を擁する上越の中心地である。しかし、中心市街地の空洞化で郊外の住宅街に人口が流出する問題を抱えており、生活に必要なスーパーなども、それに伴い郊外移転が進んでいる。これを食い止める為には、中心市街地の魅力を磨き PR をしていく中で、人口流出に歯止めをかけ、更に、移住定住先として「選ばれる街 高田」となる様に住民が率先して行動する事が肝要である。その方策を下記に提案する。</p> <p>理念 移住定住先として「選ばれる街 高田」を目指そう。</p> <p>方策 1 イベント・町内行事の再開を目指そう。 ○コロナ前に各町内が行っていた行事を再開する。3年間のコロナ禍によって地域活動を停止した為に、高齢化ややる気の減退などの理由で伝統行事を廃止する町内が出てきている。それは地域自治の減退に繋がる懸案であり、地域の活力・魅力を高める観点から出来る限り再開をする努力が望ましい。</p> <p>2 魅力ある街には人が来る。空き家を有効活用しよう。 ○中心市街地でも跡継ぎ不足から空き家が増えてきている。これを有効活用する動きが高田区でも活発となってきている。大町5丁目では空き家があるが、次々と次に住む方や事務所として活用する方が増えてきている。こういった動きを高田区全域に広げるように、住民、市役所、空き家を管理する不動産会社の連携を密にすべきと考える。</p>	
7	<p>「優先的課題：雨水排水被害対策の整備促進」 1時間の降雨量が47.6mmを越えた浸水・溢水被害の頻度が増している。下水道の汚水整備が優先的に進められ、特に高田地区では狭小団地のミニ開発が繰り返されてきた結果、宅地における排水施設の流末までの管路が脆弱である。これらのことから抜本的な整備を掲げ、雨水管理総合計画をH31年度から道路冠水実績のある排水区に優先順位を設けて実施されているが、短期整備地区のモデル地区「本城町排水地区」は計画の見直しもあり大幅な事業の遅れが生じている。早急な事業の完成を目指すとともに、不測の事態に備え、管路流末の揚水機場ポンプ3台目の増設が必要である。また、冠水頻度の高い関川右岸の鴨島第一、第二排水区における排水樋門は宅地状況及び基幹病院である中央病院への緊急車両等の進路の妨げにならぬ為にも、常設ポンプの優先度を上げなければならない。</p>	<p>「既設の観光施策である観桜会、観蓮会他の充実」 観桜会→桜花の見せ方(演出時間)の仕掛けなどで滞在しなければのルートに 観蓮会→早朝の蓮花を楽しむ仕掛けで滞在しなければ関われないルートに 高田の冬→高田城址公園芝生広場での雪像祭り(周辺からの雪利用)ナイターも利用</p>

No.	質問等	回答
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何で上越市は合併したのかなと思う。</li> <li>・ それぞれ各区だけでやっても市はよくなるのではないかな。</li> <li>・ 社会的活性化と経済的活性化で分けて考えるのが無難でよいのかなと思う。</li> <li>・ 教育や福祉は高田区に集中しており、他区から通っている人もいる。高田区でやることによって上越市の住民にもメリットがある活動を高田区で考えることも一つのまちづくりではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回、全市的なことではなく、高田区のことでもとめてきた。</li> <li>・ 政治や行政は、市民の皆さんが活動、生活、経済活動しやすい環境をどうつくるか（舞台づくり）だと思う。</li> <li>・ 市全体からすると、高田区が中心的な役割を担っている要素は多くあると思う。</li> <li>・ 抽象的でなく、具体的にやらないと前に進まないと思う。</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ （資料No. 1 のNo.3 の「本町通り 3、4、5 商店街利用者の駐車料金の実質無料化」について）本町商店街の駐車場無料化は、商店の皆さんの努力でやるものではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本町商店街の実際の土地や建物の価格が思った以上に安い中、評価額が高いことから固定資産税が高く、市はその税収を得ている。一方、郊外型店舗は駐車場は無料で、土地の価格も評価額も安く、市の税収は多くないはず。本町商店街のパーキングを3時間無料化し（ゆったりと買物等ができる）、パーキングの減収を公費で支援し（税収の還元）、事実上、郊外型店舗と競争条件を同じくする提案である。</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高田駅の西口はもう無理なのか。</li> <li>・ 高田区の活性化は、山麓線を切り離しては考えられない時代になっている。寺町以降の山麓線と本町が切り離されている感じがする。</li> <li>・ 一方通行が多く、生活がしづらい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高田駅の西口について、市はやる考えはないようだ。山麓線沿線で人が非常に増える中、高田区は東西を貫く道路が決定的に少ないことから西口はつくるべきだが、お金がかかる。しかし、市は思い切ってやらないといけないと思う。</li> <li>・ 今までの中心市街地の捉え方も間違っていたと思う。高田区全体で考え、行政に考えをはっきりさせていく必要があると思う。本町3、4、5丁目は大きな発想転換をしないとけないと思う。</li> </ul>
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本町1、2丁目も含めてまちづくりをしてほしい。</li> <li>・ 今日の資料をもとに勉強したい。</li> <li>・ 地域独自の予算について、地域協議会でグループに分かれて考えても面白いと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本町1、2丁目は雁木が相当なくなっている。大雪になると雁木が途切れたところに雪が積もり、道路に出なくてはいけなくなり、子ども達も危険だ。思い切って公的事業で雁木を連たんさせるのがよい。雁木のよいところは、傘をささずに買物したり往来できることで、高田地区の一番の利点だ。本町1、2丁目も含めてまちづくりを考える。</li> </ul>
⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本日、市議会議員の皆さんの意見を聞いて、歴史や文化を生かしていこうという、そのあたりが共通すると思う。高田城、雁木、寺町など、地域の宝をどうやって生かすか、ということ。</li> <li>・ 発信こそが交流人口を増やす一つの要になるのではないかな。市議会議員の立場で全国に何か手だてがないものか。また、地域における連携において、潤滑油的なものになっていただくと心強い。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">—</p>

No.	質問等	回答
⑥	<p>・町内会が昔に比べて弱くなっていると思う。町内会が機能しているところは、まちが活性化している。高齢化、人口減少など全部に効いてくる。どのようにやったらよいのか。</p>	<p>・担い手がないことから、弱くなっている。しかし、最小・最重要のコミュニティであり、担い手を発掘していかなければならない。まずは参加してもらうこと。参加することで地域に対する意識も変わってくる。コロナ禍でいろいろな町内活動が制限されていた。危機感をもっている町内もあり、新たな動きや再活性化が始まっている。特効薬はないが、地道にやることで確実に結果は出てくると考えている。</p> <p>・農村部の町内会は歴史的にそこに定着し、しっかりしている。しかし、まちなかの半ば住宅団地的な町内会では、あちこちから移住したりして、まとまりとしては、まとめ方の問題がある。イベントや祭り等の交流の場を設けていくと、連帯感が高まってくるのではないかと。</p> <p>・絆や連帯を図るには、祭りやイベントなど対面でやれば一番よい。しかし、今の若い人達は人とあまり会いたくない。SNSでコミュニケーションしている。町内会においてもDX（デジタルトランスフォーメーション）ということを考えていく必要があると思う。例えば回覧板など、ネットでやろうと思えばできる。そういったことを活用して、対面で顔を合わすようなつくり方をしないと、これからやっていけないのではないかと。</p>
⑦	<p>・活性化といっても各人のイメージがあり、イメージを一致させる必要がある。共通する活性化のイメージを誰かが打ち出さないと、わけの分からない話になるのではないかと。その辺のところは議会で少し検討してもらえればよいのかなと思う。</p> <p>・地域協議会にあまり期待しないほしい。13区は総合事務所があり対応しているが、合併前上越市の区はそうではない。13区と同じようにやるなら、スタッフをつけてもらわないといけない。</p> <p>・市の全体プランを示してもらわないといけない。それがなく「地域活性化の方向性」をつくるのは無理だと思う。地域協議会は諮問機関であり、アイデアそのものをつくれというのは、制度からいって本末転倒ではないかと思う。</p>	<p>・多分、合併した結果こういう話になっている。合併が失敗だったと思う。</p> <p>・地域協議会は市の諮問に対し、民意を掴んだかたちで答申する。ただ、まちづくりでは、町内会長連絡協議会などの実践的な団体が既にあり、今まで行政に要望等を行い、行政は査定し実行してきた。これが本筋だ。しかし、合併したところ、13区はそうもいかないという話になった。</p> <p>・市が一体どういう方向を目指しているのかははっきりしないではないかと、ということについて、市長がどういうビジョンを持っているのか、という方向に行くか答えはない。12月議会で第7次総合計画を審議して、我々が承認するかどうかというところにきている。「暮らしやすく希望あふれるまち上越」という漠然とした言葉があるが、暮らしやすいとはこういうことである、希望あふれるまちとはこういうことであると、わかりし具体的に書いてある。そこを読むとどういったまちをつくりたいかが少しは見えてくるのではないかと。そこに方向性を見出してもらえたらよいと思う。</p> <p>・合併前上越市の区のバックアップ体制の件は、総務常任委員会が出した提言にも入れている。合併前上越市の区はまだしばらくいいだろう、今13区を何とかしなくては、という市の姿勢が垣間見えると思っている。</p> <p>・地域協議会が行政とともに考えて政策化して予算化しましょう、となっているが本当にできるのか。</p> <p>・地域計画をたてるべきだが、市民がたてるとなると至難の業だからこそ、行政がいて議会がいる。</p>

高田区地域協議会 令和4(2022)年度の活動計画(案)  
(12月19日の地域協議会用)

1. 令和4年4月から11月の間に終了した事項

- ① 各区の地域協議会会長と市議会総務常任委員会委員との意見交換会(4/3)。
- ② 高田区の地域課題:(ア)高田区の活性化(第1分科会)、及び(イ)高田区における災害時の対応(第2分科会)を話し合う分科会の開催(4~6月に開催)。
- ③ 令和3年度地域活動支援事業についての市からの実績報告(4/18報告)。
- ④ 金谷地区公民館の移転についての市長からの諮問の審議(5/23)。
- ⑤ 地域自治推進プロジェクト及び令和4年度の地域協議会の取組等についての市からの説明・報告(5/23)。
- ⑥ 令和4年度地域活動支援事業の審査結果についての市からの報告(6/6)。
- ⑦ 高田区の令和4年度地域活動支援事業の採択内定についての報告(6/20)。
- ⑧ 金谷地区公民館の移転についての諮問に対する答申についての報告(6/20)及び同答申に対する市からの回答の報告(7/19)。
- ⑨ 自主的審議事項 高田区における大雪災害対応についての話し合い(6/20)及び意見書についての報告(7/19)。
- ⑩ 高田区の地域課題を話し合う分科会はとりあえず6月で休止と決定(6/20)。
- ⑪ 令和4年度旧北本町ガス供給所地下水水質調査についての市からの報告(7/19)。
- ⑫ 今後の自主的審議についての話し合い(7/19)。
- ⑬ 地域活動支援事業提案団体との意見交換会(7/30)。
- ⑭ 自主的審議事項「高田区における大雪災害対応についてに係る意見書」に対する市からの回答についての話し合い(8/16)。
- ⑮ 市の「『(仮称)地域独自の予算』の概要(案)」についての説明と話し合い(8/16)。
- ⑯ 8月22日に開催の地域協議会会長会議についての報告と話し合い(8/22)。
- ⑰ 「諮問事項 新市建設計画の変更」についての市の説明と話し合い(9/20)、及びこのことについての諮問に対する答申に係る報告(付帯意見を含む)(10/17)。
- ⑱ 「地域活性化の方向性」についての市の説明と話し合い(9/20、10/17)。
- ⑲ 「地域活性化の方向性」の作成に向けた高田区在住の市議会議員と地域協議会委員との学習会(11/28)。

2. 令和4年12月以降に予定されている活動

- ① 「地域活性化の方向性」についての話し合いの継続(9/20、10/17、11/21、12/19)。
- ② 上記11/28の学習会のまとめと今後の進め方についての話し合い(12/19)。
- ③ 令和4年度地域協議会の活動計画について(12/19)。

(裏面もご覧ください。)

3. 次に掲げる活動については、今後、地域協議会で引き続き検討する。

- ① 今後実施すべき研修、視察、現地調査などの検討。
- ② 他の区の地域協議会との意見交換・合同研修などの必要性、形式、実施時期などの検討。
- ③ 高田区の市民との意見交換の必要性、形式、実施時期などの検討。

**注意:** この計画については、次の点に注意してください。

1. 活動計画(案)は、最新の情報をもとに、協議会の会長・副会長が作成し、協議会に提出しています。委員の意見と協議会における話し合いに基づき、毎月更新します。
2. 活動のうち、既に終了したものと予定日が決まっているものは、月日を示しています。また、会長・副会長が、市の活動の中で高田区の市民の生活に大きな影響を与える可能性があると考えている事項は、予定日を示さずに掲げました
3. 上記の計画(案)についての質問・意見は、12月23日(金)までに南部まちづくりセンター(上越市寺町 2-20-1、電話: 522-8831/Fax:522-8832、Mail: nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp)まで、**文書**でお寄せください。